

### 土石流、山津波、鉄砲水

集中豪雨や台風により大雨が降ると、土石流が発生することがあります。山腹や川底の土砂と水が一体となって一気に急な溪流や斜面を流れ下る現象で、山津波、鉄砲水ともいいます。愛媛県今治市と徳島県美馬市の例をご紹介します。

#### ■昭和 47 年の集中豪雨（愛媛県今治市）

昭和 47 年（1972）9 月 8 日～9 日の集中豪雨により、今治市で 173 ミリ、玉川町三反地で 280 ミリを記録し、今治市、玉川町、朝倉村（いずれも現今治市）で被害が出ました。今治市では河川が氾濫し、土砂崩れが長沢、乃万など 7 箇所が発生し、予讃線も 2 箇所不通となりました。今治市の被害は住宅の全半壊 15 戸、破損 71 戸、床上浸水 972 戸などに及びました。朝倉村では満願寺の大師堂が山津波で倒壊し、玉川町では局所的な集中豪雨が地すべりや鉄砲水を引き起こし、谷山川などの河川が氾濫して、神子森で 4 人が亡くなったほか、重軽傷者 5 人、住家の全壊 16 戸、半壊 35 戸、床上浸水 81 戸などの被害が出ました。＜今治郷土史編さん委員会編「現代の今治 地誌近・現代 4」1990 年、玉川町誌編纂委員会編「玉川町誌」1984 年、朝倉村誌編さん委員会編「朝倉村誌続編」2004 年＞



満願寺の大師堂



(地理院地図に加筆)

#### ■昭和 51 年の台風 17 号（徳島県美馬市）

昭和 51 年（1976）9 月 8 日に台風 17 号が日本付近に接近し、動きが遅かったため、剣山では 8 日から 13 日までの 6 日間の合計雨量が 1,838 ミリに達しました。木屋平村（現美馬市）では、集中豪雨により山腹の地すべりと崩壊が土石流となり、川上地区の田畑、道路、橋梁、民家などを一蹴し、下流の太合・谷口カケ・谷口地区に被害をもたらしました。村内の被害は住宅の全壊 28 棟、半壊 18 棟、床上浸水 14 棟、田の流失・埋没 81ha、畑の流失・埋没 144ha などに及びました。人的被害がなかったのは、昭和 50 年の台風 6 号による惨事を繰り返してはいけないという気持ちが村全体にあったためと言われています。10 年にわたる復旧工事の完成を記念して、川上地区に災害復旧記念碑が建立されています。＜木屋平村史編集委員会編「改訂木屋平村史」1996 年及び災害復旧記念碑の碑文＞



川上の災害復旧記念碑



(地理院地図に加筆)